

大震災・復興ニュース（第19報）

平成23年8月26日
仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況（国及び県全体の動き）

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

宮城県内で採取した水産物について、下記のとおり東北大学の協力を得て放射性物質の測定をしたので、その結果をお知らせします。

- 1 測定年月日 平成23年8月22～23日
- 2 測定分析機関 東北大学（東北大学への協力依頼による）
- 3 測定結果 国が定めた暫定規制値を下回り、安全性に問題がないことが確認された。

放射性物質の値は採取日における値を示す。

水産物（採取日 平成23年8月22日）

（単位：ベクレル/kg）

種別	採取場所	放射性ヨウ素	放射性セシウム
スルメイカ	江島沖	不検出	不検出
ミズダコ	江島沖	不検出	不検出
キアンコウ	江島沖	不検出	1
マアジ	江島沖	不検出	不検出
アカガイ	閑上沖	不検出	不検出

食品衛生法の規定に基づく食品中の放射性ヨウ素の暫定規制値 2,000 ベクレル/kg

食品衛生法の規定に基づく食品中の放射性セシウムの暫定規制値 500 ベクレル/kg

2 管内の復興に向けた動き

<水産漁港部からのお知らせ>

漁場の啓開(けいかい)作業状況

- ・漁場の啓開作業は、松島湾漁場については、浮遊物の撤去作業を終了し、現在はコンテナの引き揚げ作業を実施している。

また、仙台湾漁場では、8月5日から起重機船2台での作業を行っている。現在、閑上・亘理沖を継続実施中。

漁港の応急復旧状況

- ・荒浜漁港の海岸堤防の南堤防については、胸壁背後の深掘れ箇所埋め戻しを概ね完了した。



深掘れ箇所埋め戻し作業

<トピックス>

震災後初の旋網マグロと40年ぶりの遠洋カツオ一本釣り船の水揚げ

他魚市場の水揚げ体制がまだ十分に整わないため、これまで水揚げのなかった漁船の水揚げなどで塩釜魚市場が活気づいている。

まず、8月21日、塩釜市魚市場に震災後初となるマグロ旋網船の水揚げが行われた。

この日の水揚げは第17大師丸と第28浜平丸の旋網船2隻、水揚げ量は千葉県沖で漁獲したクロマグロなど131トン。200kgを超える大型のものも多く、入札では3339円～900円/kgで取引され、主に首都圏に出荷された。また、23日にも旋網船が15トンの水揚げし、中には260kgにもなる大型のクロマグロも水揚げされた。

一方、8月22～23日には塩釜市魚市場として約40年ぶりとなる遠洋カツオ一本釣り船の水揚げが行われた。船は気仙沼船籍の第十八亀洋丸、水揚げ量はカツオ、ピンナガなど220トン、カツオは200円/kgで取引された。

さらに、8月22～23日には大目流し網漁船3隻も入港し、メカジキ、マカジキなど約35トンの水揚げした。



旋網マグロの競り



遠洋カツオ一本釣り船の水揚げ

ワカメタンク採苗状況

管内で行われているワカメタンク採苗について、最近気温が下がってきたこともあり、9月後半からの仮殖に向けて徐々に照度を上げ、生育促進を図っている。



宮戸支所のワカメタンク採苗



塩釜第一支所のワカメタンク採苗